

あわよくば

# 2 MARK 勝負

## 似た選考のレースは時期の見直しを

常滑レディースオールスター（LAS）の本場は異様なまでに熱気を帯びて、大いに盛り上がった。特に勝利者インタビュウでは、地響きにも似た歓声が上がり、選手も驚きの表情を隠せなかったほど。

しかしその一方で、売上面では目標の85億円に対して72・6億円と振るわなかった。といっても3月の周年（71・6億円）を上回っているのに、目標が高かっただけで、不振というほどではなかったように感じる。

ただ年間5回ある女子のビッグレースに対して少々食傷気味になっていることは否めない。それもそのはずで、2月のスピードクインメモリアル（SQM）に出て、このLASにも出場した選手が32人もいたから。選出基準は違うが、SQMもLASもB1級以上が選考対象であり、SQMには推薦制度があるため、似たようなメンバー構成になったのかもしれない。他にも、7月の全国ポートルース甲子園（8月のポートルースメモリアル。6月のイースタン・ウエスタンヤング）9月のヤングダービーもそうだ。

元々「ポートル界の甲子園」と呼ばれていたメモリアルのひとつ前に、ほぼ同じような選出条件のGIIができた。昨年は両方の開催に出た選手が25人いた。SGとGIIというグレード差があ

るにもかかわらずだ。やはり選出条件が近いとデジャヴ感が増し、「飽き」にもつながる。せっかくのビッグレースなのに、「見たことある」と印象付けられてしまうのはもったいない。

そこで提案したいのは、日程の見直しだ。まずLASについて。私は当初、5月に移行するのはいいアイデアだと思っていた。「5月はオールスター月間！」のようにアピールもしやすい。しかし、ふたを開けてみると前述したような問題点があった。

そこで11月への移行はどうだろうか。チャレンジカップと同時開催（別の場で）、もしくはその1週前に持つていく。そしてレディースチャレンジカップ（LCC）は廃止する。これは現状のLCCは本来の目的であるQCへの勝負駆けがほとんど機能していないからだ。SGと同時開催することでもちらも中途半端な勝負駆けになってしまった。

やはりSGは本来の52人に戻し、ベスト6・ベスト18の争いでアツくなることができる。そしてLASはQCへの勝負駆けという大事な位置づけを得たうえで、半年ぶりの人気者の祭典として大いに盛り上がるだろう。

甲子園は春の選抜という意味で3月か4月へ。メモリアルから離れば離れるほど、新鮮味を持ってレースが楽しめるのではないだろうか。（ウエスギ）